

総会議案書



日時 2026 年 5 月 12 日

富田林の自然を守る市民運動協議会

総会次第

議事

第 1 号議案 2025 年度 事業報告 ・ ・ ・ ・ ・ P. 1

(生物多様性保全のための基礎調査 R6年度『自然環境保全活用調査その23』報告書より抜粋 を含む)

第 2 号議案 2025 年度 会計決算報告 ・ ・ ・ ・ ・ P. 14

第 3 号議案 2025 年度 会計監査報告 ・ ・ ・ ・ ・ P. 15

第 4 号議案 2026 年度 事業計画 (案) ・ ・ ・ ・ ・ P. 16

第 5 号議案 2026 年度 予算 (案) ・ ・ ・ ・ ・ P. 18

第 6 号議案 2026 年度 役員 (案) ・ ・ ・ ・ ・ P. 19

第1号議案 2025年度 事業報告

I.2025年度の活動の概要

富田林の自然を守る市民運動協議会(以下協議会と略す)の活動は大きく分けて①自然環境保全の直接的な活動、②自然にかかわる文化的な活動、③自然観察、調査研究、提言活動の3つである。これらを統一的にとらえて実施している。

具体的には①に関しては「里山ホリデー」(雑木林の下伐り、里山への侵入竹の除伐、人工林の間伐、放棄田の草刈りなど)、②に関しては「米作り体験(田植え、稲刈り、稲こぎ)」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどこもちつき」、「里山生活入門」、「自然観察会(植物、昆虫、野鳥、水生生物、観察会入門)」,③に関しては「自然観察会(②と共通)」、「自然環境活用調査への協力」、「生物多様性保全に関する取り組み」などである(また、環境省の事業であるモニタリング1000里地調査の植物とチョウについて富田林の自然を守る会が実施している)。上記の各種行事に関しては当会の構成団体の一つである富田林の自然を守る会(以下守る会と略す)が協議会からの委託を受け、守る会が行う活動の中で協議会主催行事として実施している。

また、森林環境譲与税の有効な活用策については2025年度に、里山に拡大した竹の除伐、竹林整備を事業化することにし、モデル的な実施を想定して奥の谷の竹林を調査した。しかし、市はこの事業の担当課である産業部農業創造課が一方的に竹林整備事業を計画し、奥の谷でのモデル事業がこの事業計画に組み込まれていなかったため、別途2026年度にモデル事業を予算化することとなった。

一方、守る会は2019年度から設立30周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側10mの里山的管理を実施しており、協議会の取り組みもこれに準じて実施した。

II.具体的な活動

1. 自然環境保全活動(生態系保全活動)

(1)里山保全活動

守る会は奥の谷(富田林市彼方)において、里山保全活動を実施している。主なテーマは①雑木林の林床管理、②人工林(スギ・ヒノキ林)の間伐・整備、③雑木林や人工林に侵入した竹の除伐及び竹林管理、④水田(その多くは放棄田となっている)の畦やため池の土手などの



里山保全作業

表1 里山保全活動(協議会主催)

表1 里山保全活動・協議会主催									
No.	開催日				行事名	作業内容	参加人数		
	年	月	日	曜			大人	子ども	計
1	2025	4	19	土	里山ホリデー	間伐、皮むき	6	2	8
2		7	12	土	里山ホリデー	水田草取り、間伐、皮むき	6	2	8
3		11	8	土	里山ホリデー	中止(参加者なし)	—	—	—
4		12	14	日	里山保全と交流会	薪割りなど、交流会	12	2	16
5	2026	1	10	土	里山ホリデー	どんどこもちつき準備	9	0	9
6		2	7	土	里山ホリデー	シイタケ植菌	13	8	21
7		3	7	土	里山ホリデー	中止(参加者なし)	—	—	—
合計							46	14	62

表2 里山保全作業(里山フライデー)(自然を守る会独自の活動)

No.	開催日				作業内容	参加人数		
	年	月	日	曜		大人	子ども	計
1	2025	4	4	金	雑木林の整備	19	0	19
		5	2	金	中止(雨天のため)	—	—	—
2		6	6	金	雑木林の整備	23	0	23
3		7	4	金	雑木林の整備	15	0	15
4		8	1	金	中止(熱中症警戒アラートのため)	—	—	—
5		9	5	金	中止(台風のため)	—	—	—
6		10	3	金	雑木林の整備	14	0	14
7		11	7	金	雑木林の整備	17	0	17
8	2026	12	5	金	雑木林の整備	18	0	18
9		1	9	金	雑木林の整備	23	0	23
1		2	6	金	雑木林の整備	22	0	22
11		3	6	金	雑木林の整備	18	0	18
合計						169	0	169

表3 外部団体との共催・受け入れなど

No.	行事	開催時期			主催団体	作業内容	参加者数			
		年	月	日					守る会	計
							大人	子ども		
1	週末ワークキャンプ	2025年10月、2026年3月を除く毎月。 2025年9月と2026年2月は2泊、他は1白(計10回)			NICE富田林チーム	雑木林整備、人工林間伐、皮むき、薪割り、施設整備、イベント準備、観察カメラ回収、溜池のかいぼりなど	143	21	62	226
2	里山関連講座	2025	5	25	保全協会(インスト)	竹伐採、竹炭など	23	0	3	26
3			10	29	シニア自然カレッジ	里山見学	28	0	4	32
4			11	9	大阪環境事業協会	里山ボランティア体験講座	12	0	3	15
5		2026	1	21	シニア自然カレッジ	春の里山観察とお粥づくり	19	0	5	24
6			1	31	大阪精華高等学校	ナチュラリスト体験講座	23	0	5	28
7	溜池・用水路などの草刈り	2025	5	18	水利組合などと共催	溜池、用水路などの草刈り	10	0	8	18
合計							258	21	90	369

草刈り、⑤水生生物の保護(水の生き物池の管理)である。協議会は「里山ホリデー」及び「里山保全と交流会」と称する行事を主催し、里山保全の活動に参加した。その実施状況を表1に示す。

守る会では2025年度に林野庁の「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金の交付を受け、雑木林の里山保全事業を実施した。協議会の事業以外にも守る会独自の「里山保全作業(大阪シニア自然カレッジ里山部会から多くの人が参加)」や会員による「自主活動」などにより上記の5つの活動を展開した。それらの活動状況を表2、3および表4に示す。

2025年度の参加延べ人数は協議会主催の「里山ホリデー」では62人、守る会独自の「里山保全作業」では169人、外部団体との共催・受け入れでは369人、守る会の自主活動では493人で、里山保全活動に関わった総延べ人数は1,673人であった。これは2024年度の1,413人に比べて増加している。

表4 自主活動(里山保全に関わるもののみ)

開催年月		回数	作業内容	参加人数 (延べ)
年	月			
2025	4	5	草刈り、里山見学、水田管理、農道整備	19
	5	13	草刈り、水田管理、農道整備	40
	6	10	水田管理、倒木処理、草刈り、農道整備	23
	7	10	草刈り、田の草取り、溝清掃、畑整備	18
	8	8	倒木処理、草刈り、施設整備	13
	9	15	施設整備、草刈り、水田管理、	48
	10	10	草刈り、稲刈り準備、草集め、 生き物池整備、農道整備	29
	11	14	イノシシ柵補修、草刈り、溝清掃、 農機具整備、散策路整備	36
	12	14	施設整備、草刈り、薪割り、溜池整備	44
2026	1	10	溜池かいぼり準備、草刈り、側溝清掃、 施設整備、柵作り、生き物池管理	30
	2	2	里山保全、施設整備	7
	3	7	草刈り、里山散策、研修準備	21
合計				328

2.文化的活動(自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動)

(1)米作り体験

米作り体験の実施状況を表5に示す。奥の谷の水田(約400㎡)を借地し、米作りを実施した(約230㎡にうるち米、約170㎡にもち米を栽培)。協議会の行事としては①田植え、②稲刈り、③稲こぎ(脱穀)を行った。玄米でうるち米(ヒノヒカリ)約50kg、もち米(コガネモチ)約20Kgを収穫した。三行事を通じた延べ参加人数はスタッフ(富

表5 米づくり

No.	行事名	実施日			参加人数			備考
		年	月	日	大人	子ども	計	
1	田植え	2025	5	31	39	18	57	NICE週末が参加。長田、もち米田
2	稲刈り		10	5	10	4	14	4日の予定が雨のため順延
3	稲こぎ		11	1	31	9	40	NICE週末が参加
合計							111	

田林の自然を守る会の役員)を含め 111 人であった(稲刈りは雨天で順延したため参加者が少なかった)。水田の耕耘、苗代づくり等田植えの準備、田植え後の水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。

(2)観察会

観察会は、植物観察会、水の生き物観察会、昆虫観察会および野鳥観察会を実施した。それらの実施状況を表 6 に示す。

① 植物観察会

奥の谷を中心に実施した。その時期に花が咲いているものあるいは実がついているものを観察し記録した。ただし、10 月 18 日はドングリを中心に春日神社～奥の谷で実施した。シリブカガシやツブラジイがみられる春日神社周辺を中心に観察した。4 回の観察会で 33 人が参加した。

② 水の生き物観察会

6 月 28 日に「水の生き物池」で実施した。17 人が参加し、10 種類の生き物を観察した。具志堅氏を講師に実施した。

③ 昆虫観察会

午後 4 時 30 分に奥の谷に集合し、ネットでの採集、バナナトラップ、ピットホールおよび夜のライトトラップによって観察・採集した。18 人が参加した。小室氏を講師に実施した。

④ 野鳥観察会

滝谷不動駅に集合し、石川から春日神社を通過して奥の谷までのコースで観察した。

上村氏(日本野鳥の会大阪市部)を講師に実施し 18 人が参加した。



水の生き物観察会

植物観察会は講師を含め会のスタッフで運営した。これらの観察会の観察記録は調査としても活用する。調査結果については別途整理する予定である。

表 6 観察会

No.	行事名	実施日				観察した生物種数(植物は花または実)	参加者数				備考
		年	月	日	曜		一般参加者		スタッフ	計	
							大人	子ども			
1	植物観察会	2025	4	12	土		5	4	3	12	
2	植物観察会		6	21	土		2	0	2	4	
3	植物観察会		9	13	土		1	3	4	8	
4	植物観察会		10	18	土		0	4	5	9	
植物観察会の合計人数							8	11	14	33	
6	水の生き物観察会	2025	6	28	土	10種<メダカ,イトトンボ(ヤゴ),ガムシs,マツモムシ,ヤンマsp(ヤゴ),トンボsp(ヤゴ),トノサマガエル,ヌマガエル,シュレーケルアオガエル,ニホンアカガエル(オタマジャクシ)>	6	5	6	17	講師:具志堅氏
7	昆虫観察会		7	21	月		5	6	7	18	講師:小室氏
8	野鳥観察会	2026	2	14	土		5	7	6	18	講師:上村氏
全ての観察会の参加者数							24	29	33	86	

(3)その他の文化的行事

その他の文化的行事の実施状況を表7に示す。『春の野草を食べる会』、『里山クラフト』、『どんともちつき』、『春を見つけよう』を実施した。『春の野草を食べる会』と『どんともちつき』は予定していた1月11日は強風で危険であったので『もちつき』のみ実施し、1月17日に『どんと』を実施した。4行事の総参加人数は84人であった。

表7 その他の文化的行事										
No.	行事名	実施日				参加人数				備考
		年	月	日	曜	一般		スタッフ	計	
						大人	子ども			
1	春の野草を食べる会	2025	4	13	日	—	—	—	—	雨天中止
2	里山クラフト		11	24	月	5	6	6	17	蔓細工.講師:佐々木氏
3	どんどもちつき	2026	1	11	日	21	14	10	45	強風のため餅つきのみ実施
	どんどもちつき			17	土	5	5	8	18	どんどのみ実施
4	春を見つけよう		3	14	土	2	0	2	4	
合計						33	25	26	84	

3.調査研究・政策提言活動など

(1)自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。令和7年度(自然環境保全活用調査その24)の調査報告書の抜粋を本経過報告の末尾に掲載する。

(2)奥の谷の生物調査

①観察会

各種観察会(表6)で観察された生物を整理し記録した。

②守る会などによる調査

- ・モニタリング 1000 里地調査(以下モニ 1000 と略す)
モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会(NACS-J)に委託して実施している調査で、守る会は 2009 年から奥の谷において植物およびチョウの調査を行なっている。2025 年は 17 年目となっている。
- ・フクロウの調査への協力
守る会は大阪公立大学のフクロウ調査に協力している。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し産卵したが、2024 年度は羽化に至らなかった。2025 年度は産卵が見られなかった。また、他の巣箱には 2021 年度に続き 2022 年度、2023 年度、2024 年度、2025 年度もムササビが入っているのが確認された。



フクロウの巣箱にきたムササビ
(大阪公立大額提供)

(3)岸本記念緑地公園のヒメボタル調査

2025 年のヒメボタル発生状況および鑑賞者の状況を表 8 に示す。5 月 16 日～6 月 2 日の 15 日間(雨天で調査しなかった日を除くと 13 日)の調査で、観察数のピークは 5 月 28 日で 308 頭であった。また、鑑賞者の人数は 13 日の合計で延べ 664 人であった。調査を始めた 2020 年から 2024 年までは観察数、鑑賞者数ともに大きく増加し、2025 年は前年よりやや減少した。鑑賞者数が 2024 年は 857 人、2025 年が 664 人と多くの人々が訪れるようになってきており、この公園のヒメボタルへの関心が広まってきていると思われる。

表8 岸本記念自然緑地公園のヒメボタルの発生状況および観賞者の状況											(調査者: 楠本孝一)		
年	月	日	曜日	天気	大阪府気温高低(℃)		ボタル出現数(約)			案内時間	グループ数	人数	備 考
					最高	最低	段丘下	段丘上	合計				
2025	5	16	金	曇り	25.4	19.4	10	1	11	20:20~21:00	4	9	前日の連絡により下見カメラマン2組
2025	5	20	火	晴れ	28.7	20.2	60	25	85	19:50~21:40	14	19	案内初日カメラマン1人
2025	5	21	水	曇り後雨	29.5	22.4	—	—	—	—	—	—	7時前より雨の為に案内中止
2025	5	22	木	曇り	30.5	20.7	51	32	83	19:50~22:00	20	38	夜になると風も出て気温も下がりが個体数も少ない
2025	5	23	金	曇り	27.3	17.1	101	42	143	20:00~22:00	37	88	無風で気温が下がらず段丘下の個体が増えた。家族連れが増えてきた。
2025	5	24	土	曇り後雨	22.0	19.3	—	—	—	—	—	—	午後から雨の為に案内中止
2025	5	25	日	雨後曇り	20.2	18.6	16	7	23	19:50~21:40	22	45	昨夜強風の為、観察路に三本の倒竹有、撤去。午前中雨、午後気温上がらず個体数が激減
2025	5	26	月	曇り	20.2	14.9	55	22	77	19:50~21:45	25	53	子供たちの家族グループが増えた。気温がまだ少し肌寒い
2025	5	27	火	曇りにわか雨	25.5	14.8	90	72	162	20:30~19:50	7	13	6時過ぎより7時過ぎにわか雨、訪問者少ない。
2025	5	28	水	晴れ	28.1	16.4	102	206	308	19:45~22:00	42	80	今年初めて感動したとの言葉を聞いた。段丘上の個体が多くなった。
2025	5	29	木	曇り一時雨	23.8	19.6	79	148	227	19:40~21:40	19	52	幼稚園児と思われるグループが観賞。重複の鑑賞者増える。小雨が降出し早い目に引上げ
2025	5	30	金	晴れ後曇り	26.0	17.1	54	102	156	19:45~22:00	26	55	気温が低下、ボタルの個体数が減少。
2025	5	31	土	曇り	22.6	18.7	56	67	123	19:50~22:00	39	97	子供グループが多い、市外の観賞者が増えてきた。個体数が減少している。
2025	6	1	日	晴れ	26.1	17.8	39	64	103	19:50~21:30	31	89	近郊の観賞者が多い。
2025	6	2	月	曇り	28.1	15.9	11	50	61	19:50~21:00	12	26	個体数が激減、9時前小雨ばらつき訪問者も少ないので9時に案内中止。
合 計				15			724	838	1562		298	664	
マックス					25.6	18.2	102	206	308		42	97	

(4)富田林市緑の基本計画の実現に向けて

「富田林市緑の基本計画」は2019年3月に新しく策定され、7年を経過したが計画のほとんどが未着手となっている。計画ではPDCAサイクルで進行管理をすることになっている。2020に当協議会で進行管理を行うこととなったが、その後も具体的には進んでいない。2026年3月の当協議会役員会に市より『富田林市緑の基本計画「実行（Do）および評価（Check）」シート」が提示された。

(5)生物多様性保全について

・生物多様性地域戦略の策定

生物多様性地域戦略の策定に関する検討は2025年度も具体的には進まなかった。

しかし、各種の取り組みにおいては『生物多様性保全』を意識して取り組んだ。

(6)冊子『富田林の自然』No.20の発行

No.19 を 2025 年 6 月に発効した。

4.その他の活動

(1)森林環境譲与税について

2019年度から森林環境譲与税が国から地方自治体に分配されている(2024年度から住民税納税者1人当たり年間1,000円が課税されている)。この森林環境譲与税を活用して以下のことが以下のことがすすめられた。

①森林への侵入竹の除伐及び竹林整備

市は 2023 年に市域の森林の調査を大阪府生物多様性センターに依頼した。この調査結果に基づき市域の森林に広がる竹林の除伐、整備を実施することを決め準備を進めている。2024 年度に奥の谷でモデル的に実施することを決定した。そして 2025 年度に計画を具体化し、2026 年度に実施することとし、モデル的实施のための予算化を図ることとなった。

②里山講座

市は第3回『里山講座』を『富田林の自然を守る会』に委託して実施した。

(2)岸本記念自然緑地公園の管理について

2023年4月4日に市営「岸本記念自然緑地公園」としてオープンした。当公園は市街地にあつてヒメボタルやカブトムシが生息し、いくつかの貴重な植物の生育がみられることから生物多様性豊かな緑地として管理することが求められていいる。

①管理方法について(以下のような提案がなされ了承された)

・管理の目標および留意点について

1. 園内の生物多様性を高める

「多様な植物の生育を促す」「現況の在来植物、希少種を保護する」「外来種はできるだけ除去する」「現況にある園芸種以外は新しく持ち込まない」「新しく植物を導入する場合は近隣の里山などに生育する種を移植する」「ヒメボタルの生育環境を保全する(・林内の斜面地の草むらや藪を残し、林内の湿度を保つ、・外部の光ができるだけ入らないようにする、・街灯は点灯しない、・園路の幅を広くしすぎない)」「園路は動植物の生育生息を優先して整備・利用する」「その他現況にみられる生き物の生息環境に配慮する」

2. 地域の身近な自然として親しめる場とする

「園路は、動植物の保全に配慮した上で、安全に歩けるようにする」「園路沿いの植生は、見通しを妨げないようにする」「季節ごとの花や多様な生き物に触れ合えるようにする」「木の実(ドングリなど)を活用して子どもたちの環境教育の場とする」

②管理ミスの防止について

2025年11月に協議会役員で伐竹範囲を明示し、伐採する竹をテープでマークした。その後12月に業者による伐採作業が行われたが、明示した範囲が皆伐されるミスが発生した。今後このようなことが起らないための対策を議論した。その中で例えば植生管理を『富田林の自然を守る会』に委託してはどうかなどの意見が出され、次年度予算に向けて検討することとなった。

Ⅲ.協議会参加団体の活動

1.特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい“里山的”生き方・暮らし方 の提案」をコンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約120名。河南町の里山フィールドを中心に、ボランティアの仲間が楽しみながら、雑木林や棚田、果樹林などの保全活動を行なっています。

<講座および自由参加活動>

- | | | |
|-------------|-----------------|----------------|
| ●里山ボランティアの日 | ●里山日和(里山体験) | ●里山っ子クラブ(子供対象) |
| ●もりあん(技術講習) | ●弘川千年の森(協働事業) | ●ツリーイング(木登り) |
| ●炭もり(薪炭林管理) | ●源流米パラダイス(棚田保全) | ●たわわ果林組(果樹林保全) |

●里山と暮らす応援講座(里山実習) ●里山と暮らす環境改善(シガラと石積みの斜面修復)
＜生産販売事業＞

●里山事業部(森林作業請負、炭・薪等の生産販売)
＜まちづくり・調査研究活動＞

●お日様クラブ(薪炭林のエネルギー化研究)

●里山環境教育オフィス(企業・行政の協働・受託事業)

連絡先:寺川裕子

〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6

TEL 072-333-0309



里山と暮らす環境改善
(シガラ作り)

2.NPO 法人学びと育ち南河内ネットワーク

NPO 法人「学びと育ち南河内ネットワーク(略称「まなそだネット」)」は、富田林を中心とした子ども達の学びと育ちを支援するために、2018年に府立富田林高校の同窓会が中心となって設立されました。そして、「科学教室力塾」の「探究教室」では「まなそだネット」の経済的な支援を受け、小中高生が研究活動を行っています。自然に恵まれた南河内地域を主なフィールドとして活動し、研究を深化させ、科学コンテストや学会などで成果を発表しています。活動のコンセプトは「探究」と「貢献」であり、テーマは地域への貢献を意識しています。



日本薬学会第146年会高校生サイエンスフェスタでの発表

2025年度は、地域の小学生から高校生までが、ため池のプランクトンやクマムシなどの微生物、カイコなどの昆虫、ため池や河川に生息する淡水魚や淡水貝を材料に研究を行い、さまざまな機会を発表しました。なかでも、石川流域に生息するシマヒレヨシノボリという淡水魚の研究は、3月28日の日本薬学会第146年会高校生サイエンスフェスタで優秀発表賞を受賞しました。このような発表活動を通じて、子ども達は地域貢献意識を育んでいます。

連絡先:小川力也, 〒584-0032 富田林市常盤町 15-10 ビジョンプラザ 3階, TEL0721-55-4681

3.嶽の会

2026年3月14日自然観察入門(春を見つけよう)・協議会行事を担当。一般参加大人2人、スタッフ2人の計4人の参加でした。

奥の谷の散策路を歩きながら早春の草花だけでなく、ウグイスの鳴き声やアカガエル(オタマジャクシ)、蜜箱を出入りする蜜蜂、モグラの骨格なども観察することができました。休憩時にはフキノトウ味噌をつけたミニお握りを振る舞い好評でした。

連絡先:上角敦彦 富田林市若松町 4-6-29 TEL 0721 24 8757

4.富田林の自然を守る会

協議会参加団体のうち守る会の活動については協議会の活動と一体的な部分が多くそれらは上記協議会の活動報告に記載した。上記に記載できなかった活動について報告する。

・里山講座

市からの委託を受け、講座名を『富田林・里山保全ボランティア体験講座』とし、以下の内容で実施した。

①『雑木林の管理作業』—雑木林の下伐り、老朽化した大径木の伐採—

2025年11月30日(日)、受講者2人。

②『人工林(スギ・ヒノキ林)の間伐』—スギやヒノキの伐採—

2026年1月18日(日)、受講者7人。

③『竹の除伐・竹林整備・竹炭焼』—竹を伐採、竹炭焼き—

2026年2月15日(日)、受講者10人。

・班活動

炭焼班:里山に侵入したモウソウチクなどを伐採して竹炭を製造。

ミツバチ班:自然界に生育するニホンミツバチを飼育する。

カレー班:カレーの材料を全て栽培する(大阪自然環境保全協会の「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト」を実施している)。

米作り班:農薬や化学肥料を使わない自然栽培の米作り。

・施設整備

施設整備守る会の拠点小屋(みかん小屋)とその周辺の整備。

・要望書

市が『金剛風土の丘』の売却の方針であることから、2025年7月7日に売却しないことを求めて『金剛風土の丘』についての要望書を提出した。しかし市は売却を決定し、広報に入札を掲載したため、12月9日に再度『金剛風土の丘』に関する要望書を提出し市長と面談した。入札は不調であったが市は売却方針を変えていない。

連絡先:上角敦彦 富田林市若松町4-6-29 TEL 0721 24 8757

IV.2025年度の活動などで特徴的だったこと

1. 石川河川公園“自然ゾーン”が環境省「自然共生サイト」に認定された。
2. 守る会が今池(溜池)の『かいぼり』を実施した。
3. 守る会に『みんスタプロジェクト』の提案があり、それに関連して、『里山公園(仮称)』の提案があった。

V.会議

1.役員会

2025年4月18日(金)、6月20日(金)、7月25日(金)、8月29日(金)、9月26日(金)、10月24日(金)、11月21日(金)、12月12日(金)、2025年1月16日(金)、2月13日(金)、3月19日(木)。

2.会計監査

2026年3月31日(月)。

3.総会

2025年5月12日(月)。

生物多様性保全のための基礎調査

～R7 年度「自然環境保全及び生物多様性調査その 24」報告書より抜粋～

1. 生物ホットスポット等の現況調査

(1) 生物ホットスポット等の現地調査（岸本記念自然緑地公園）

2023 年 4 月にオープンした岸本記念自然緑地公園は希少なヒメボタルの群生地であるが、緑地オープン後に生息数の減少傾向がみられる。そこで将来的に生息環境を継続的に保全していくため、大阪公立大学の平井規央教授（農学部 緑地環境科学科）に現地を見ていただき、現況の評価と今後の維持管理についての留意点をアドバイスいただいた。

●調査地の現況 （調査日 2025/4/15）



平井教授と緑地内を歩いて観察しながら現況を確認



ヒメボタル幼虫の餌となる巻貝類の卵を確認したが、乾燥気味で生息数は少ないとみられる



竹林内に生育するウラシマソウ



東側園路沿いのキケマン

(2) 調査結果のまとめ、取組み提案

当該地のヒメボタルについては、その発生状況について富田林の自然を守る会の楠本氏が詳細な調査を行っている。その結果データと平井教授のアドバイス、また現地の植物の生育状況を勘案して以下のような管理目標を設定し、将来的な植生管理方法のイメージ図を作成した。

●管理の目標および留意点

1. 園内の生物多様性を高める

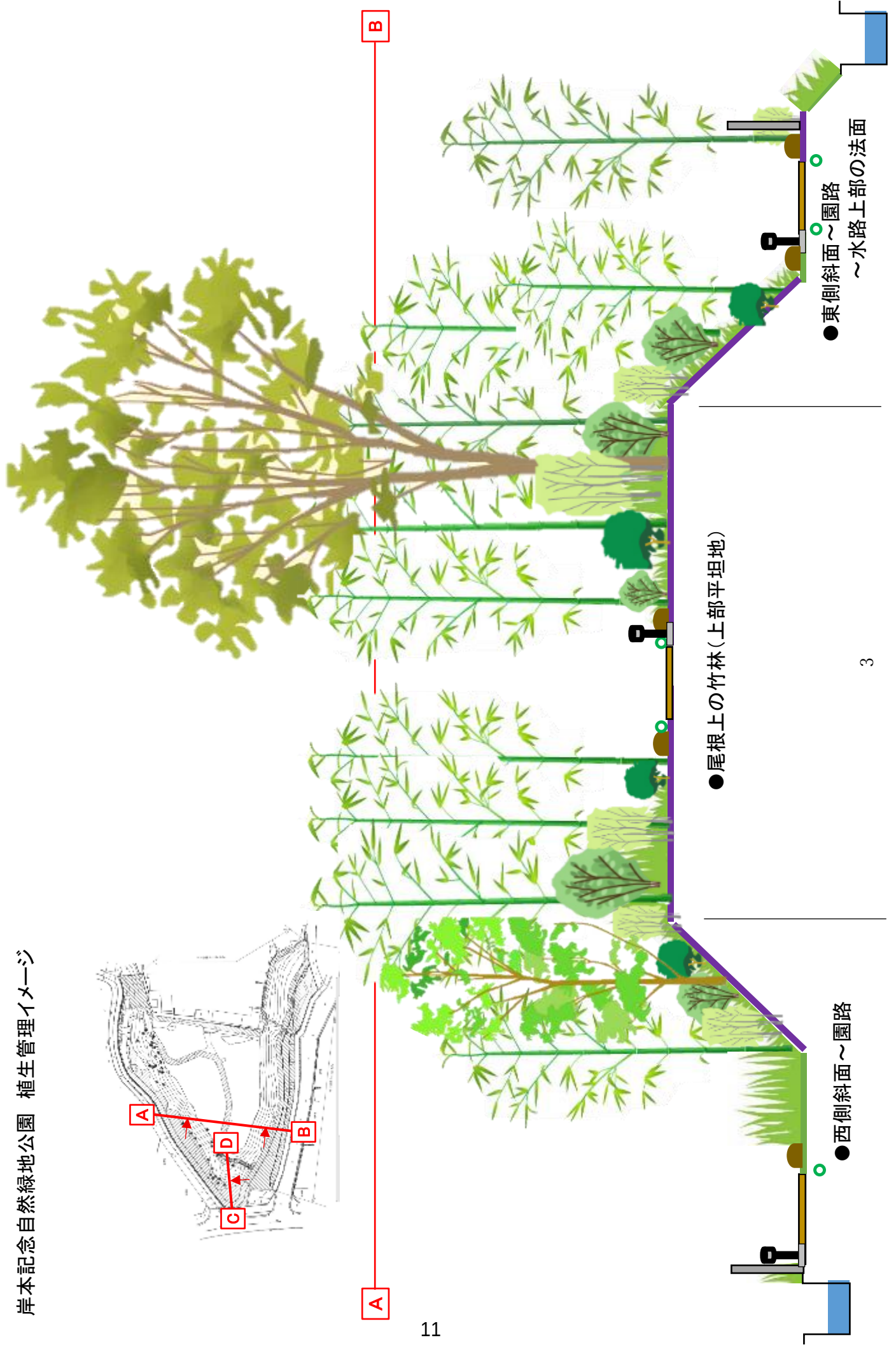
- ・多様な植物の生育をうながす
- ・現況の在来植物、希少植物を保全する
キケマン、ウラシマソウ、センダングサ、ヤブカンゾウ、ヒガンバナ、ナンテンなど
- ・外来種はできるだけ除去する
- ・現況にある園芸種（ヒトツバタゴ、コスモスなど）以外は新しくもちこまない
- ・ヒメボタルの生育環境を保全する
 - ・竹林内や斜面地の草むらや藪を残し、林内の湿度を保つ
 - ・外部からの光（街灯）ができるだけ入らないようにする
 - ・ヒメボタルへの影響を考慮して、街灯は点灯しない
- ・園路の幅を広くしすぎない（1、5m程度）
- ・園路は動植物の生育生息を優先して整備・利用する
- ・その他、現況に見られる生き物の生息環境に配慮する
タヌキ、カルガモ、ホトトギス、カブトムシなど

2. 地域の身近な自然として親しめる場とする

- ・園路は、動植物の保全に配慮した上で、安全に歩けるよう管理する
- ・園路沿いの植生は、見通しを妨げないよう工夫する
- ・季節ごとの花や多様な生き物に触れ合えるようにする
- ・木の実（ドングリなど）を活用して子供たちの環境教育の場とする。

●主な管理スケジュール

- | | | | |
|----|-------|--------|----------------------|
| ・春 | 4～5月 | 土園路の点検 | (ホタル観察への対応) |
| ・夏 | 6月末 | 除草1 | : 土園路、園路沿い草地、水路上部の法面 |
| | | 新竹の伐採 | : 水路上斜面 |
| ・秋 | 9月中旬 | 除草2 | : 土園路 |
| ・冬 | 12～2月 | 竹林管理 | : 枯れ竹、倒れた竹の伐採、チップ化 |
| | | 園路整備 | : 竹の根の処理、整地 |



岸本自然記念緑地公園のヒメボタルについて

2009（H21）年から13年にわたりボランティアによる整備作業が行われてきた竹林が、「岸本記念自然緑地公園」として整備され、2023年4月4日にオープニングセレモニーが開催された。この緑地はヒメボタルの群生地、毎年5月に黄金色の光を放つたいへん美しい光景が見られます。

しかしながら、この貴重な光景を将来にわたり守っていくためには、ヒメボタルが生息する環境を維持するためのさまざまな配慮や管理が必要で、ここでは生息の記録と現状を紹介します。

「岸本記念自然緑地公園」説明版

この自然緑地公園は、元弘年間に楠木正成の千早城、赤坂城を守る出城の一つと伝わる場所で、太古の石川河岸段丘の一部です。

「富田林の自然を守る市民運動協議会」が岸本忠三氏をはじめ地権者の方々のご了解のもと、2009年から整備を行ってきました。整備作業は、近隣住民の方々のご協力もあり、「富田林の自然を守る会」をメインにボランティア活動によって進められ、2011年にはNICE（日本国際ワーキングキャンプセンター）の活動として、台湾のボランティア団体であるVYA（Vision Youth Action）の方々や、2011年～2012年にはフランスの青年が中長期ボランティアとして整備に携わりました。

当初は、生竹や枯死竹が密集し荒れた竹藪でしたが、今では密度管理された美しい竹林となり、ヒメボタルやカブトムシなどの生息地、カモやホトトギスなどの野鳥の飛来地として生物多様性が向上しました。住宅地や工業団地に囲まれた当地が、生物多様性に富んだ自然緑地公園として保全されるようになったことは、富田林市の自然環境保全やまちづくりにとって大切なことです。2021年に、この自然緑地公園の地権者である岸本忠三氏をはじめ、江川孝明氏、田中好隆氏、田中巳三和氏らからのご厚意により富田林市に寄贈を受けました。市では、身近な自然を育み、生物多様性豊かな、そして地域の人々の憩いの場として活用できるよう自然緑地公園として整備しました。

2023年3月 富田林市



中野竹林（岸本記念自然緑地公園）のヒメボタル（2022.05）

小島氏撮影

60秒間シャッターを開けて撮影、（一枚写真で合成ではない）



番号	場所及び付近	状 況
1	交番横広場	交番横の南入口付近は訪問者のバイク、自転車置場にしており、草刈をしております。草の有る所にホタルを確認。
2	交番裏東遊歩道入口	遊歩道以外は草刈りしていない、また、交番、外灯の明かりが有るが、例年よりホタルの個体数が多く感じた。
3	東側遊歩道	崖の法面、東側道路側に緑（低木等）が有る所は、比較的ホタルの個体数が多く感じた。（葉っぱに止まり点滅していた）
4	東入口付近	崖の法面、坂道側面の緑（低木等）が有る所は比較的ホタルの個体数が多く感じた。（葉っぱに止まり点滅していた）
5	東側溝沿い	柵と溝との間の法面、例年は道路等の外灯で明るいためか、ホタルの個体数が少ないが、今年はホタルの個体数が多かつ
6	西側南段丘下平坦地	平坦箇所と崖との接点は窪地で湿気があり、草木が生い茂る所。例年は道路等の外灯で明るいためか、ホタルの個体数が少ないが、今年はホタルの個体数が多かった。
7	西側北段丘下平坦地	南天等の草木が有る、例年は道路等の外灯で明るいためか、ホタルの個体数が少ないが、今年はホタルの個体数が多かつ
8	西側北スロープ付近	段丘上の入口横の大木を伐採されたためか、例年よりホタルの個体数が少ない。
9	北西側民家との境界	境界線内側約2m程、低木等が刈り取られ光が竹林内に侵入、例年よりホタルの個体数が半分以下に激減している。
10	北東側民家との境界	境界線内側約2m程、草刈りはされているいるがナンテン等低木等有り、例年よりホタルの個体数が少し少ないようだった
11	段丘上北側大木付近	平らな林床付近のホタルの個体数が少ないが、西側崖の上付近の個体数は比較的に多い。総体的には激減している。
12	段丘上南西側平坦地	平らな林床付近のホタルの個体数が少ないが、西側崖の上付近の個体数は比較的に多い。総体的には激減している。
13	段丘上遊歩道北側	例年よりホタルの個体数が少ないが、遊歩道の幅が広すぎ、ホタルの横断が少ないようであった。
14	段丘上遊歩道南側	中央階段付近も例年よりホタルの個体数が少ないが、段丘上の遊歩道の幅が広すぎ、ホタルの横断が少ないようであった。
15	段丘上南東側平坦地	平らな林床付近のホタルの個体数が少ないが、東側崖の上付近の個体数は比較的に多い。総体的には激減している。
16	段丘上北東側平坦地	平らな林床付近のホタルの個体数が少ないが、東側崖の上付近の個体数は比較的に多い。総体的には激減している。

1. 段丘上の竹林は総体に明る過ぎる。
※林床が乾燥して餌のベッコウマイマイやオカチュウジガイ等巻貝が繁殖しにくい。(湿気必要)
2. 段丘上の林床が綺麗に整理されている。
※ベッコウマイマイやオカチュウジガイ等は腐葉土化したクズ等の落ち葉を餌とします
※低木等が少ないためか、雄の平坦地の飛行が少ない、休憩場所が少ないためか？
3. 民間との境界近辺が明るく光が竹林内侵入している。
※産卵は大木の根本や腐蝕気味の古木の地面側で湿気気味の土壌を好む。(4/15 平井先生)
4. 西側段丘下の窪地の暗闇に個体数が多かった。
※窪地は排水が悪く湿気が有り、かしの木等常緑樹の枝等が垂れ下がっている、外灯の光が無ければ環境は良いと思われます。
5. 岸本記念自然緑地公園の広さとヒメホタル保存の為に遊歩道の道幅が 2.5m とやや広いと思う。
※ヒメホタルは適度な湿り気があり、クズが繁茂した湿った草むらが必要。
※段丘上的一部分に間伐した竹を玉切り、半割し地面に敷。産卵、繁殖等の環境を整える。(力塾 木村先生)
※ホタルの産卵は木の根っこ等で適度な湿気な場所が必要。(くすの木の根子を好む、4/15 平井先生)

今年ホタルが減った理由としては、(富田林百景 林保夫氏のコメント)

- ①昨年の猛暑で地表面が乾燥状態になったこと。
竹の落葉の下は適度の湿気が必要かと思われます。
- ②竹のおがくずの散布が少なくなったこと。
古い竹をほとんど間伐したので、チップする頻度も少なくなっているのではないかと思います。
- ③竹の落葉の積み重ねが整備前よりかなり少なくなっているようです。
以前は歩くとブカブカの状態で竹の葉の腐葉土が積み重なった自然の状態でした。草刈は必要ですが、竹の落葉は取りすぎないことが重要です。
- ④遊歩道を 2m 弱から 2.5m に広げることにより、太陽の直射の影響。
土壌の乾燥度や直射を嫌う微生物、ダニや節足動物、陸生の巻貝への影響が上げられます。
- ⑤遊歩道上の地下茎を切って外から砂(真砂)入れたことへの影響。
この部分はホタルのエサなる巻貝に必要な腐葉土がなくなりました。両側の竹藪の分断による影響が出てくると考えられます。
- ⑥遊歩道上もホタルの子孫を残す出会いの場所になっていますが、人の往来により環境が乱され、場合によりホタルを踏みつぶしてしまう危険性があります。

岸本記念自然緑地公園の ヒメボタルは地域の宝

♀

♂

～鑑賞にあたってのお願い～

ここ岸本記念自然緑地公園では毎年5月上旬から6月上旬、日没後から深夜にかけ、数百匹のヒメボタルが黄金色の光を一斉に放つ光景を目にすることができます。ホタルはオスとメスが出会うために光るといわれています。ヒメボタルの場合、飛翔しながら光るのは全てオスで、メスは飛ぶための翅（はね）を持たず、じっと草陰や地面の上で光ってオスに場所を知らせます。翅のないメスの移動能力は低く、生息地の環境の変化には大変弱い種であるといえます。したがって、昔から数多くのヒメボタルが舞う環境....岸本記念自然緑地公園は、紛れもなく貴重な環境と言えるでしょう。彼らがこの先も繁栄し続けるためには、私たちの配慮が不可欠です。彼らの繁栄・維持と観察に訪れる皆様の安全のために、以下の行為はご遠慮くださいますようお願いいたします。

5つの禁止事項



喫煙



竹やぶを
照らす



順路を外れる



ホタルの採集



フラッシュ撮影

ヒメボタルMEMO

- 大阪府レッドリスト準絶滅危惧種（NT）
- メスは飛ぶことができないため環境の変化に弱い
- ゲンジボタルやヘイケボタルと違い一生を陸上で過ごす
- 幼虫（写真）はオカチョウジガイなど陸生巻貝を食べる
- 深夜に光る個体群と日没後に光る個体群が存在する

♂の発光



足元にお気をつけ下さい
踏み潰される個体がたくさんいます

作成：富田林高校科学部

発行：富田林市産業まちづくり部道路公園課



都市公園に生息するヒメボタルの保全についての一考察

大阪府立富田林高等学校科学部 直木 湊

1. 背景

1.1. ヒメボタル(*Luciola parvula* Kiesenwetter)



(図1)雌雄の乾燥標本と発光器



(図2)メスは後翅をもたない

- ◇ コウチュウ目カブトムシ亜目(多食亜目)ホタル上科ホタル科ホタル属に属する日本固有の陸生ホタル^[1](図1)
- ◇ 竹林,山林,農地,河川敷などに生息
- ◇ 大阪府レッドリスト 2014 準絶滅危惧(NT)
- ◇ オスは発光飛翔を行いメスを探索^[2]
- ◇ メスは後翅をもたず飛べない(図2)ため発光しオスに居場所を知らせる

1.2. 研究の動機

絶滅危惧種の減少要因として生息・生育地の開発は最多(図2)

(3,155 種中 1,679 種(53%))^{[3][4]}。

本種は絶滅危惧種ではないが、メスが移動能力に乏しい⇒環境悪化が本種の減少・絶滅に直結する可能性が高い

なぜヒメボタルを保全するのか?

- ◇ 本種の生息地を保全することは、ほかの生物にとっても有益であると予想される(幼虫は様々な小動物を餌として利用⇒良好な環境が必要)
- ◇ 目を引く特徴(発光する)をもつ本種の保全を行うことで市民の理解や関心を得やすくなる
- ◇ 身近な自然に対する意識向上

課題

- ◇ 幼虫の人工飼育法が未確立(図4)
夏場の気温上昇に弱い・餌の腐敗・蛹化場所の確保が課題

- ◇ 光が配偶行動に及ぼす影響

- ◆ 配偶行動は雌雄が互いに放つ光に依存する

- ◆ 人工光の増加に伴い年々ヒメボタルの活動時間帯が遅くなった事例^[5]
⇒人工光による影響



(図3)(環境省,2021)^[3]より作成



(図4)マキガイを襲うヒメボタルの幼虫

1.3. 本研究の目的

ヒメボタルのオスの配偶行動にヒトの活動が与える影響を軽減し、生息地の保全に繋げる

2. 方法

- ・オス成虫の発光飛翔数調査@岸本記念自然緑地公園(図5)

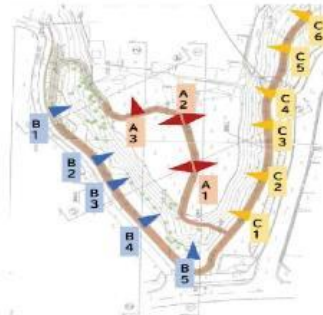
2023年5月25日,26日,28日,31日,2024年5月15日,20日,21日,25日,26日,27日,29日,30日 計12回

- ・環境に応じてA区間,B区間,C区間(以下A,B,C)の3区間を設定

A:竹林内部 B:竹林外縁部 C:竹林外縁部

- ・視野を直径約40cmの輪の内側に限定しカウント

⇒個体数が多いため重複カウントを極力減らす・カウントし易くする
園路上に設定したA1~A3,B1~B5,C1~C6の14地点で1分間ずつカウント

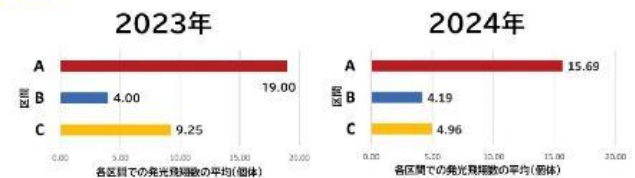


(図5)調査地の概略図と航空写真



3. 結果

- ◇ A,B,C区間で発光飛翔数に差が見られた
- ◇ 平均発光飛翔数は2023年,2024年ともにAで最多,次いでCが多く,Bが最少。2年とも同様の傾向がみられた。



(図6)2023年,2024年の各調査区間における発光飛翔数の平均個体数

4. 考察

- ◇ 竹林の内部で多くの個体を確認したこと、人工光によってオスの配偶行動に制約が生じている可能性が示唆された。本種は分光感度のピークが580nm付近にあり^[6]、LED街灯や車のライトの光に対する感受性をもつため、人工光は本種の存続に悪影響を及ぼすと考えられる。

5. 展望

公園周辺の光が竹林内に入り込まないような公園整備が望ましいと考えられる。

発光飛翔数に違いが見られる理由が周辺の光以外にある可能性を排除できないので検証を重ねる必要がある。調査地では、地元の保全団体により竹林の管理が行われるようになってから本種の発光飛翔数が増加したと聞いた。人の手による管理も本種の存続には不可欠であると考えられる。繁殖期間が短いため、鑑賞者のマナー向上など、環境面以外にも配慮を行う必要があると考えた。

6. 参考文献

- [1]広島大学「ヒメボタル」広島県の動物図鑑 / 地名館、広島大学デジタル博物館 Digital Museum of Hiroshima University. 2017.06.28 ページ作成. <https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/main/index.php/%E3%83%92%E3%83%A1%E3%83%9C%E3%82%BF%E3%83%AB>。(参照 2024-11-3)
- [2]大塚信哉「ヒメボタルの2生涯の発光パターンとコミュニケーション」稲須真由(著)Sci.Rept.Yokosuka City Mus.(47):1-22.Mar.2000 https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/wp/wp-content/uploads/2020/09/s47-1_Ohta.2000.pdf
- [3]環境省.まもろう日本のいきものたち 2021.Jan. <https://www.env.go.jp/content/900491887.pdf>
- [4]環境省.我が国の絶滅のおそれのある陸生生物の保全に関する点検とりまとめ報告書 Mar.2000 <https://www.env.go.jp/press/attach/ja/19531.pdf>
- [5]大塚信哉「ヒメボタルの発光パターンとコミュニケーション」Jpn. Environ. Entomol. Zool. 13 (2) : 67-76 (2002)

7. 謝辞

本研究を行うにあたり、科学教室力塾の小川力也氏、長井勇樹氏、奥川陽平氏、「富田林百景」の林保夫氏、「富田林の自然を守る会」の楠本孝一氏、同会の皆様、富田林市、富田林高校科学部の皆様には多大な協力を賜りました。心より感謝申し上げます。



(図7)配布した注意喚起用のビラ

第2号議案 2025年度決算報告

歳 入

項 目	予 算	決 算	増減(決算—予算)	備考
補助金	243,000	270,000	27,000	富田林市からの補助金
行事参加費	30,000	32,700	2,700	各種行事参加費、延109人
寄付金	450,000	365,271	-84,729	自然を守る会から365,271円
雑収入	0	0	0	
繰越金	0	0	0	
総 計	723,000	667,971	-55,029	

歳出

項 目	予 算	決 算	増減	備考
報償費	20,000	30,000	10,000	昆虫観察、クラフト、野鳥観察、講師御礼
消耗品費	100,000	118,956	18,956	草刈り替刃、長靴、竹引鋸など
郵送費	10,000	570	-9,430	
燃料費	60,000	59,306	-694	作業機械、発電機、軽トラック
賄い材料費	20,000	21,883	1,883	行事日の昼食材料代
備品購入費	50,000	46,300	-3,700	発電機
修理費	150,000	3,800	-146,200	軽トラック点検修理
施設管理費	5,000	0	-5,000	
施設整備費	50,000	267,938	217,938	製材代 屋外テント
使用料及び賃借料	30,000	30,000	0	水田使用料
保険料	100,000	85,218	-14,782	スポーツ安全保険(刈り払い機、チェーンソー)
国際ワークキャンプ費	100,000	0	-100,000	未実施
予備費	28,000	4,000	-24,000	軽自動車税
総 計	723,000	667,971	-55,029	

監 査 報 告 書

令和 8年 3月31日

富田林の自然を守る市民運動協議会
会 長 田 淵 武 夫 様

富田林の自然を守る市民運動協議会
会計監査 小 川 力 也 

富田林の自然を守る市民運動協議会規約第6条に基づき、年度会計に関する監査を
下記のとおり実施したところ、次のとおりであったので報告します。

【 監査結果 】

事 項	意 見	指 摘 事 項	備 考
事 業 等 の 実 施 状 況	問題なし	特になし	
会 計 事 務 の 状 況	問題なし	特になし	
そ の 他	特になし	特になし	
総 括		適 正 ・ 概ね適正 ・ 不適正	

第4号議案 2026年度事業計画（案）

1 自然環境保全活動

(1) 里山保全活動

『里山ホリデー』と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下伐り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理（間伐、枝打ち、皮むきなど）、休耕田・放棄田、溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路（作業路）造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00～15:00頃とする。

日程:2025年4月18日(土)、5月16日(土)、6月13日(土)、7月11日(土)、11月7日(土)、12月13日(日)、2025年1月9日(土)、2月6日(土)、3月6日(土)。なお、12月13日は「里山保全作業と交流会」と称して午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。また、富田林の自然を守る会は30周年記念事業として協議会が2006年に提案した奥の谷周辺の観察路について、その両側約10mに里山的管理を実施する事業を2019年度より開始している。雑木林の下伐り、竹林整備、人工林の管理についてはこの計画を踏まえて実施する。

なお、各事業を申込み制とし、基本的には定員を20名とする。ただし、事業によっては状況に応じて事業ごとに定員を増減することもありうるものとする。

2 文化的活動

(1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。日程は次の通りとする。

① 田植え:6月7日(日)10:00～15:00頃。

② 稲刈り:10月4日(日)10:00～15:00頃。

③稲こぎ:11月1日(日)10:00～15:00頃〈予備日11月3日(火)〉。

(2) 春の野草を食べる会

日時:4月29日(水)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(3) 里山クラフト

日時:11月21日(土)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(4) どんどこもちつき

日時:1月13日(日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(5) 観察会入門（植物観察会:春を見つけよう）

早春の動植物を見つける。

日時:3月14日(土)。

場所:奥の谷。

3 自然観察・調査研究・提言活動

(1) 自然観察会

①植物観察会

下記の日程でおこなう。適宜地域を変更して実施する。また、内容についても検討する。

日程:4月25日(土)、5月23日(土)、9月12日(土)、3月13日(土)。

②水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月27日(土)10:00～13:00頃。

場所:奥の谷。

③昆虫観察会

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルーート観察などを行う。

日時:8月8日(土)16:00～21:00頃。

場所:奥の谷。

③ 野鳥観察会

日時:2月13(土)9:00~13:00頃。

場所:近鉄滝谷不動駅~石川~春日神社~奥の谷。

(2) 自然環境保全活用調査 その23

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

(3) 冊子「富田林の自然」No. 20 の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を6月に発行する。

(4) 生物多様性保全の取り組み

「自然環境保全活用調査」において2016年度より「生物多様性保全のための基礎調査」が行われてきている。これらの調査を踏まえて「生物多様性地域戦略」の策定に向けて検討する。また、全ての行事に生物多様性保全を意識して取り組む

(5) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

2025年度に市より提起された『富田林市緑の基本計画の実行（Do）および評価（Check）シート』に基づき計画で実施することになっているPDCAサイクルでの進行管理を具体的に進める。

(6) 森林環境譲与税の使途について

市は竹林整備を実施することとし、農業創造課に『森林整備意向確認業務』として8,600千円、道路公園課に『里山保全活動業務委託』として100千円及び『里山保全管理事業補助金』として1,200千円予算化された。このうち『里山保全活動業務委託』では2025年度につづき富田林の自然を守る会に委託して『里山講座』を開催し、『里山保全管理事業補助金』については奥の谷で竹林管理モデル事業を実施する。

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

2026年度は守る会がNICEと共催で「国際ワークキャンプ」実施する予定である。この事業に財政的なことを含めて支援・援助を行う。

(2) 協議会加入団体への支援

当協議会加入団体の活動に対し必要に応じて支援・援助を行う。

5. 会議

(1) 役員会：原則として毎月第3金曜日の10時~12時に市役所(すばるホール)において開催する。

(2) 総会：2026年5月に市役所(すばるホール)で開催する。

第5号議案 2026年度 予算案

1.一般会計

収入の部

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減(予算－前年度予算)	備考
補助金	270,000	243,000	270,000	27,000	
行事参加費	30,000	30,000	32,700	0	
寄付金	450,000	450,000	365,271	0	守る会より
雑収入	0	0	0	0	
繰越金	0	0	0	0	
合計	750,000	723,000	667,971	27,000	

支出の部

項目	予算額	前年度予算	前年度実績	増減(予算－前年度予算)	備考
報償費	30,000	20,000	30,000	10,000	
消耗品費	100,000	100,000	118,956	0	
郵送費	5,000	10,000	570	-5,000	
燃料費	60,000	60,000	59,306	0	
賄い材料費	20,000	20,000	21,883	0	
備品購入費	50,000	50,000	46,300	0	
修理費	150,000	150,000	3,800	0	
施設管理費	5,000	5,000	0	0	
施設整備費	50,000	50,000	267,938	0	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	30,000	0	
保険料	100,000	100,000	85,218	0	
国際ワークキャンプ費	100,000	100,000	0	0	
* 予備費	50,000	28,000	4,000	22,000	
合計	750,000	723,000	667,971	27,000	

第 6 号議案 2025 年度役員（案）

役員名	氏 名	団 体 名
会 長	田 淵 武 夫	（富田林の自然を守る会）
副会長	上角 敦彦	嶽の会
会 計	上角 敦彦	嶽の会
会計監査	小川 力也	NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク
理 事	寺川 裕子	NPO法人里山倶楽部
理 事	楠本 孝一	富田林の自然を守る会

団 体 名	郵便番号	連 絡 先	電話番号
富田林の自然を守る会	584-0024	富田林市若松町 1-3-18-304	0721-25-8896
里山倶楽部	584-0024	若松町四丁目 20 番 6 号	0721-25-3128
嶽の会	584-0024	若松町四丁目 6 番 29 号	0721-24-8757
NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク	584-0032	常盤町 15-10 石田ビル 3F	0721-55-4682

※緊急連絡先 田淵会長 携帯電話 090-8888-3912

オブザーバー参加 日本国際ワークキャンプセンター関西事務局

事務局 まちづくり部	北田 寛人 部長
	井上 保 次長
道路公園課	井上 保 課長
	秦中 俊明 参事
	武田 一平 主幹
みどり公園係	西塚 誠 係長
	山口 はるか 副主任
	上田 晴久

〒584-8511 富田林市常盤町 1 番 1 号 富田林市役所電話

0721-25-1000 内線 424 FAX0721-24-0269

E メール douro@city.tondabayashi.lg.jp